

人口と世帯

第2部

2

- 12 県人口
- 13 世帯数
- 14 市町村別人口の増減
- 15 市町村別昼夜間人口比率
- 16 人口ピラミッド
- 17 年齢3区分別人口
- 18 転入・転出状況
- 19 出生率・死亡率
- 20 婚姻・離婚率
- 21 平均初婚年齢





平成30年10月1日現在の奈良県の人口は134万70人

奈良県の人口は平成11年をピークに減少しています。

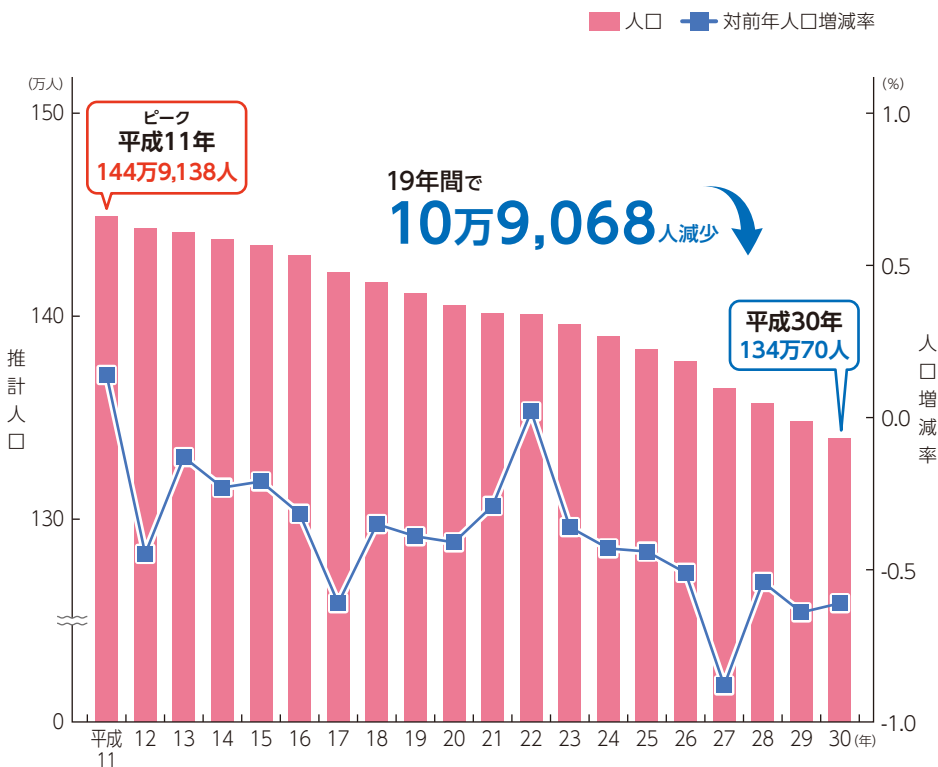
大正9年に実施された第一回国勢調査での奈良県の人口は56万4,607人でした。この人数は、全国の5,596万3千人のうちの1.0%で、全国46位でした。

県人口のピークは平成11年の144万9,138人で、大正9年の約2.6倍です。なお平成11年の全国の1億2,666万7千人のうちの1.1%で、全国29位でした。その後は緩やかに減少傾向が続き、この19年間で10万9,068人の減少となっています。

●推計人口…国勢調査時の人口に、その後の出生・死亡・転入・転出による人口の増減を加算したもので、住民基本台帳の人口とは異なります。

毎年10月1日現在の推計人口及び人口増減率の推移

資料：県統計分析課「奈良県推計人口年報」



注)平成12年、17年、22年及び27年は国勢調査確定値。



世帯数

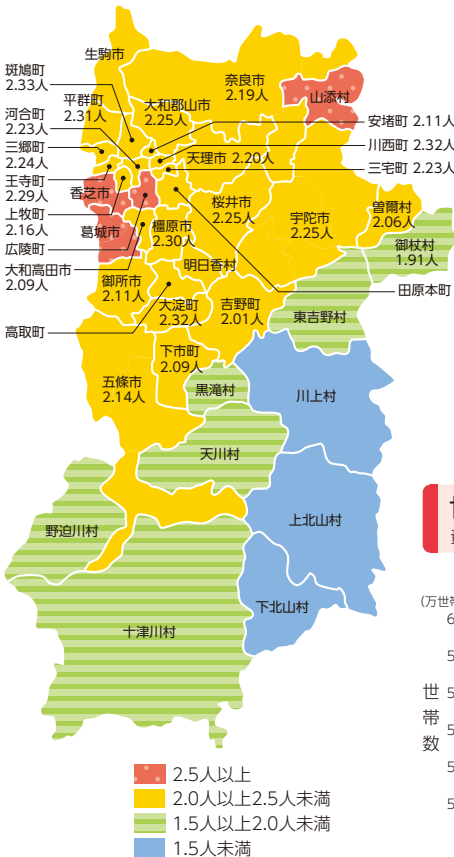
世帯数は増加が続き、1世帯あたりの規模は年々縮小

平成30年10月1日現在の世帯数は59万3,146世帯で、前年と比べ3,212世帯(0.54%)増加しました。1世帯当たりの人員は2.26人となっています。

人口総数は減少している中で、世帯数は増加を続けていますが、1世帯当たりの規模は年々縮小しています。1世帯当たりの人員を市町村別にみると、広陵町2.58人、葛城市2.53人、山添村2.53人、香芝市2.52人の順に多く、少ないのは、下北山村で1.38人、上北山村1.46人、川上村1.47人、黒滝村1.66人となっています。

市町村別の1世帯当たり人員(平成30年)

資料:県統計分析課「奈良県推計人口年報」



1世帯当たり人員の多い市町村

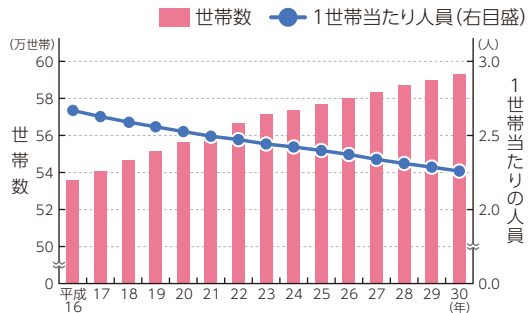
広陵町	2.58人
葛城市	2.53人
山添村	2.53人
香芝市	2.52人
明日香村	2.47人
田原本町	2.44人
高取町	2.39人
生駒市	2.35人

1世帯当たり人員の少ない市町村

下北山村	1.38人
上北山村	1.46人
川上村	1.47人
黒滝村	1.66人
東吉野村	1.67人
野迫川村	1.68人
十津川村	1.80人
天川村	1.84人

世帯数と1世帯当たりの人員の推移

資料:県統計分析課「奈良県推計人口年報」,総務省統計局「平成27年国勢調査」



注)世帯数は「住民基本台帳」平成24年7月9日から外国人登録は住民基本台帳に含まれる。



市町村別人口の増減

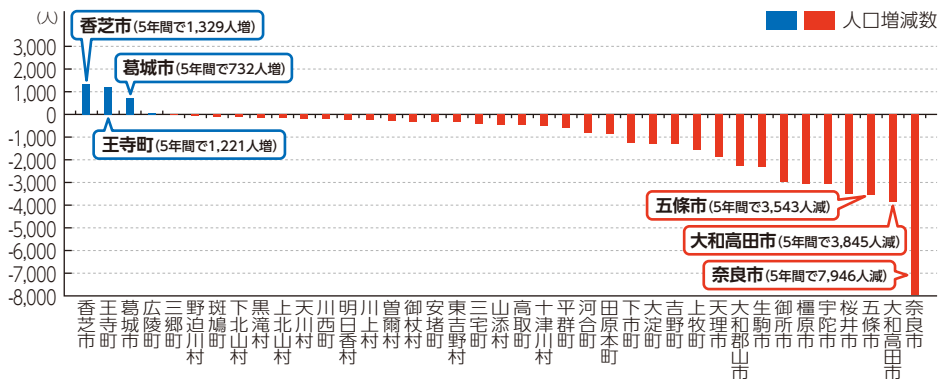
直近5年間で人口が増加した市町村は、香芝市、王寺町、葛城市など4市町

平成25年10月1日～平成30年9月30日の5年間で人口が増加したのは4市町、減少したのは35市町村でした。

奈良県推計人口年報でみると奈良県の人口は、直近5年間で4万3,479人(市部2万5,986人、郡部1万1,071人)減少しています。市町村別にみると、増加数が多いのは香芝市(1,329人増)、王寺町(1,221人増)、葛城市(732人増)の順で、減少数が多いのは奈良市(7,946人減)、大和高田市(3,845人減)、五條市(3,543人減)の順となっています。増加率が高いのは、王寺町5.42%、葛城市2.02%、香芝市1.72%の順、減少率が高いのは、上北山村▲28.23%、黒滝村▲19.87%、下市町▲19.54%の順となっています。

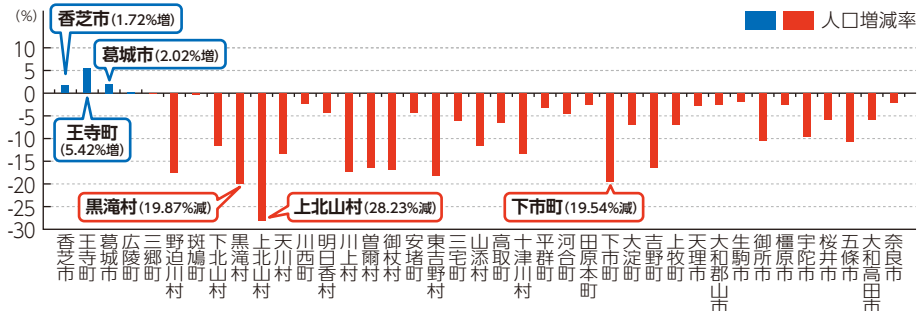
市町村別人口増減率(平成25年～平成30年)

資料:県統計分析課「奈良県推計人口年報」



市町村別人口増減率(平成25年～平成30年)

資料:県統計分析課「奈良県推計人口年報」





市町村別昼夜間人口比率

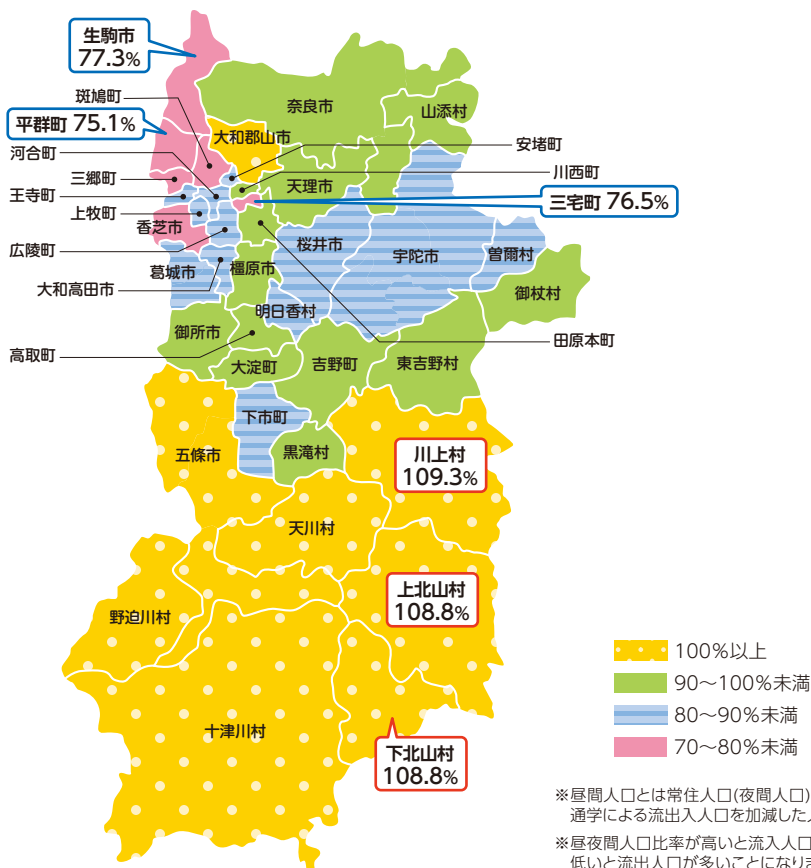
昼夜間人口比率が低いのは、平群町、三宅町、生駒市の順

奈良県内市町村別の昼間人口は、奈良市が34万1,656人と最も多く、次いで橿原市が11万5,063人、生駒市が9万1,375人となっています。

平成27年の昼夜間人口比率(常住人口100人当たりの昼間人口の割合)は、川上村が109.3%と最も高く、次いで下北山村が108.8%、上北山村が108.8%となっています。これに対して、昼夜間人口比率が最も低いのは平群町が75.1%、次いで三宅町が76.5%、生駒市が77.3%となっています。県全体の昼夜間人口比率は、全国で3番目に低く90.0%となっています。

市町村別昼夜間人口比率

資料:総務省統計局「平成27年国勢調査」





人口ピラミッド

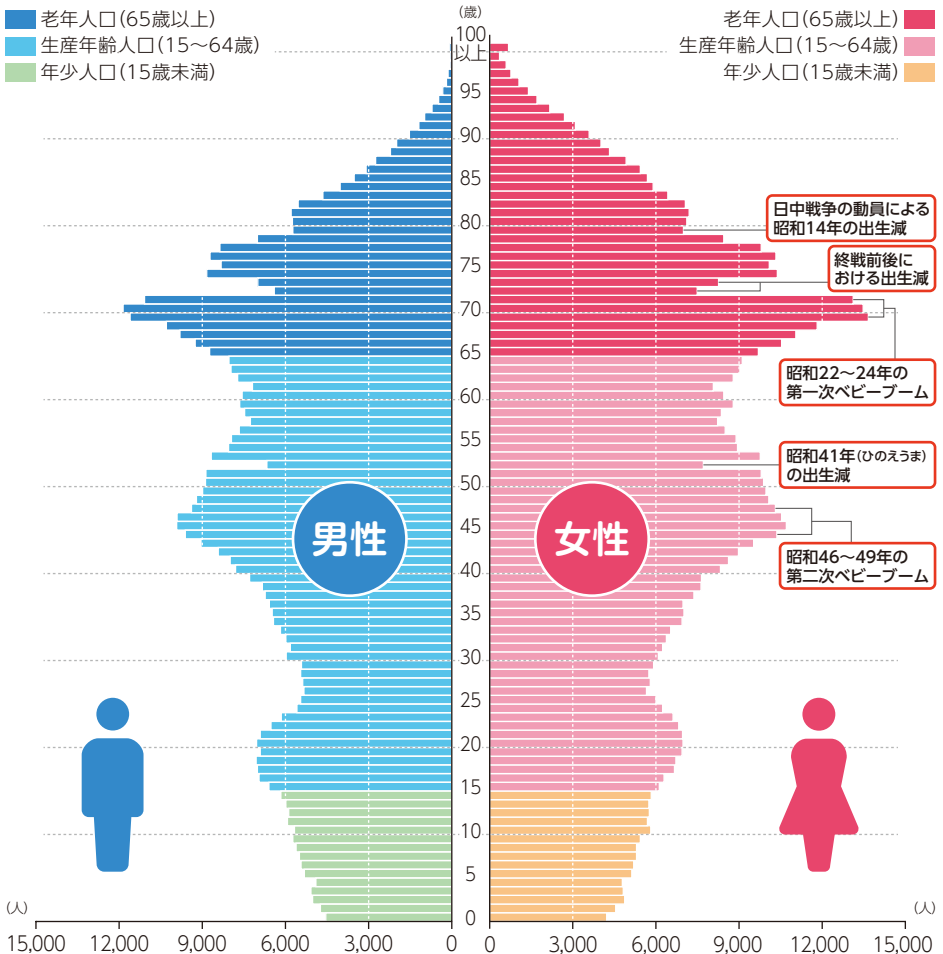
少子高齢化が進む年齢構成

奈良県の人口の年齢構成を人口ピラミッドの形態によってみると、「ひょうたん型」に近い形となっています。

奈良県の男女別人口(平成30年10月1日年齢別人口)は、男性63万1,465人、女性70万8,605人で、女性が男性より7万7,140人多くなっています。

奈良県の人口ピラミッド(平成30年10月1日現在)

資料:県統計分析課「奈良県年齢別推計人口年報」





年齢3区分別人口

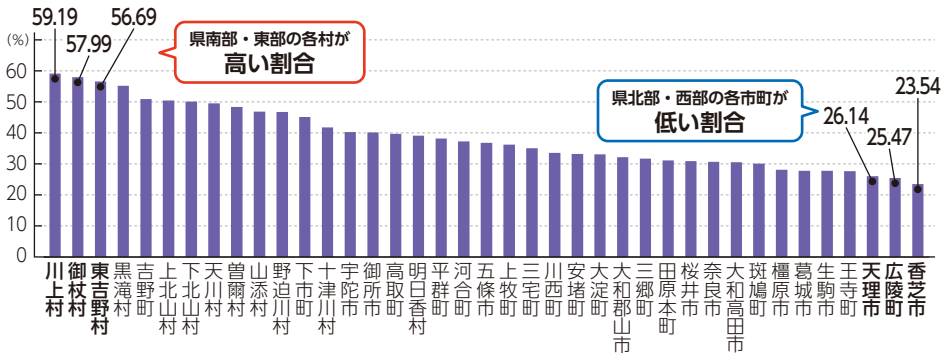
65歳以上の人口の割合は30.80%と年々増加、市町村別にみると、川上村59.19%、御杖村が57.99%と高い

年齢3区分別にみると、平成30年の年少人口(0~14歳)は15万9,943人(県人口の12.03%)、生産年齢人口(15~64歳)は75万9,805人(57.17%)、老年人口(65歳以上)は40万9,335人(30.80%)で、老年人口の割合が年々増加しています。

平成30年の老年人口の割合を市町村別にみると、川上村59.19%、御杖村57.99%、東吉野村56.69%と高く、低いのは香芝市23.54%、広陵町25.47%、天理市26.14%となっています。

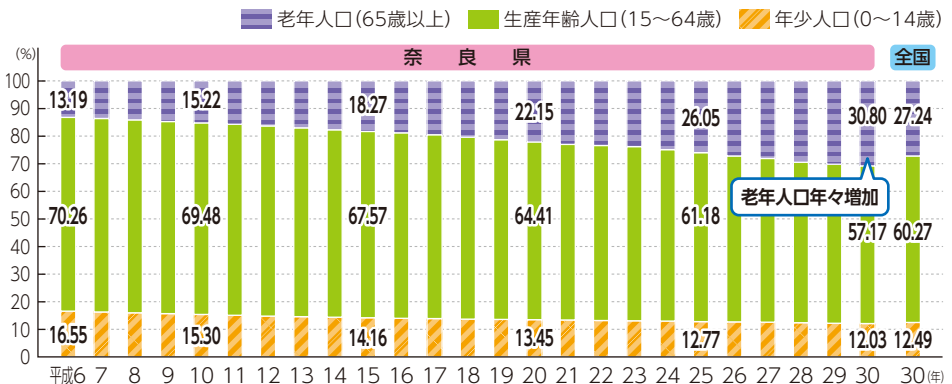
市町村別の老年人口割合(平成30年)

資料:県統計分析課「奈良県推計人口年報」



年齢3区分別人口割合の推移

資料:総務省自治行政局「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」
県統計分析課「奈良県推計人口年報」





転入・転出状況

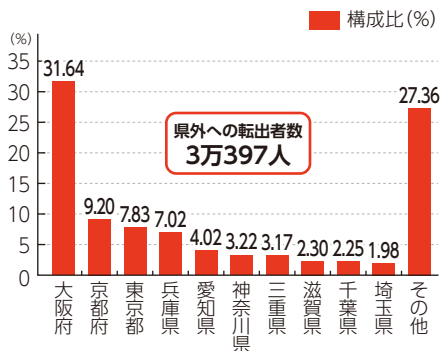
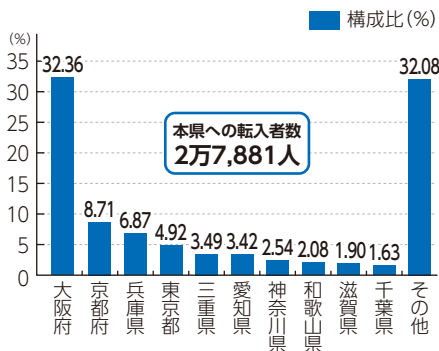
平成10年から21年連続で転出超過

平成29年10月1日から平成30年9月30日の1年間に、県外から本県への転入は2万7,881人、本県から県外への転出は3万397人で、差し引き2,516人の転出超過となっています。

本県では昭和40年の調査開始以来転入超過が続いていましたが、平成10年からは21年連続で転出超過となっています。転入・転出ともに近畿ブロックが最も多く、転入では大阪府(9,021人)、京都府(2,429人)、兵庫県(1,916人)の順で多く、転出は大阪府(9,617人)、京都府(2,798人)、東京都(2,381人)の順となっています。

都道府県別移動状況(上位10都道府県) 平成29年10月1日～平成30年9月30日

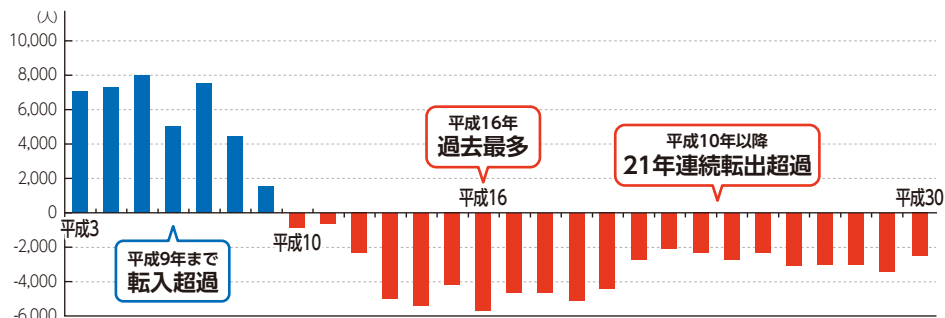
資料:県統計分析課「奈良県推計人口年報」



小数点以下四捨五入しているため合計が100%にはなりません。

県外移動者数(転入者数-転出者数)の推移(奈良県)

資料:県統計分析課「奈良県推計人口年報」



※) 各年の転入、転出者数は、前年10月1日から当年9月30日までの移動者数を表す。



出生率・死亡率

平成17年から死亡率が出生率を上回る

平成29年の出生数は8,965人、死亡数は1万4,486人で、差し引き5,521人の減少となっています。出生率(人口千対)は6.7、死亡率(同)は10.8となっており、平成17年から死亡率が出生率を上回る状況が続いています。

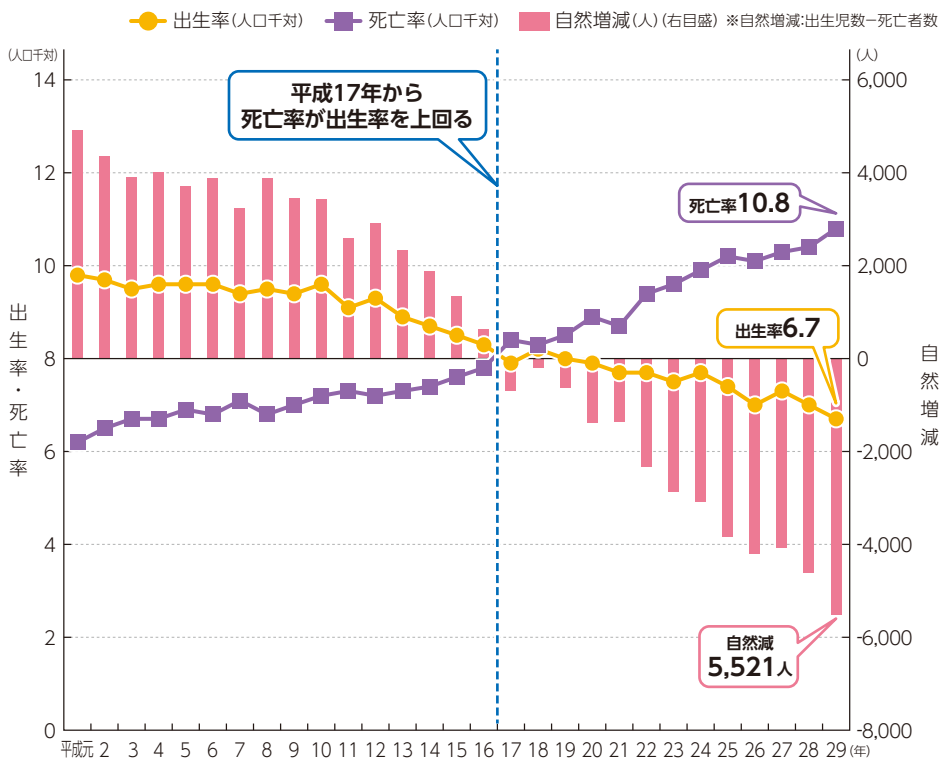
平成17年からの自然減(死亡超過)の推移をみると、平成17年(696人減)、平成18年(208人減)、平成19年(641人減)であったのが、平成27年(4,088人減)、平成28年(4,624人減)、平成29年(5,521人減)と減少数が大きくなっています。

なお、平成29年の合計特殊出生率は奈良県値が1.33、全国値は1.43となっています。

- 合計特殊出生率…「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数

出生率・死亡率・自然増減の推移

資料:厚生労働省「人口動態統計」





婚姻・離婚率

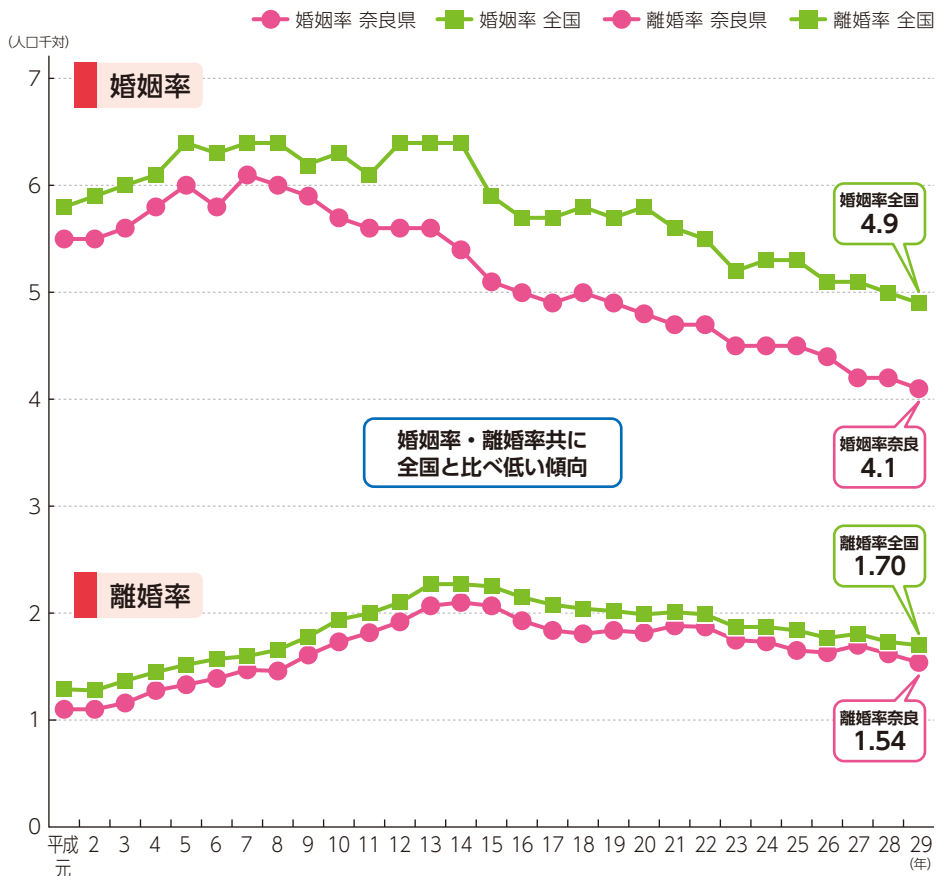
婚姻率は減少傾向

平成29年の婚姻件数は5,492組で、婚姻率(人口千対)は4.1となっており、多少の変動はあるものの平成7年以降緩やかに下降しています。一方、離婚件数は2,055組で、離婚率(同)は1.54となっています。

平成29年の本県の婚姻率は前年と比べると0.1ポイント減少、離婚率は0.08ポイント減少しています。全国と比べると、同じような動きですが、全国の方が婚姻率、離婚率ともに高い傾向となっています。

婚姻率・離婚率の推移

資料:厚生労働省「人口動態統計」





平均初婚年齢

平均初婚年齢は全国平均とほぼ同じ

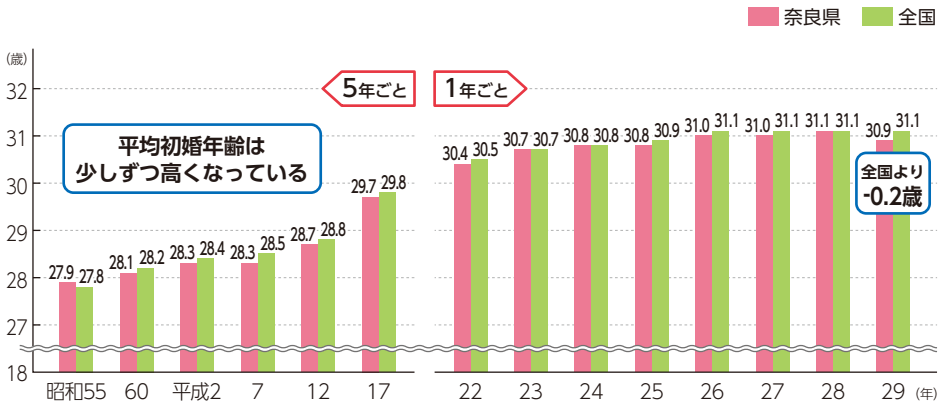
平成29年の平均初婚年齢は夫が30.9歳、妻が29.4歳となっており、少しずつですが高くなっています。

平成29年の平均初婚年齢を全国と比べると、夫は全国の31.1歳に対して30.9歳と0.2歳下回っており、妻は全国と同じ29.4歳でした。

なお、昭和55年では、夫は全国が27.8歳、県が27.9歳で、妻は全国、県ともに25.2歳でした。

平均初婚年齢の推移(夫)

資料:厚生労働省「人口動態統計」



平均初婚年齢の推移(妻)

資料:厚生労働省「人口動態統計」

